

平成 29 年 2 月 22 日
日本船主協会 総務部

海運の重要性を学校教育の場で
～尾道市立原田小学校にて海運に関連した授業が行われる～

日本船主協会は、学校教育において、我が国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、海事・港湾都市を中心に要請活動を展開している。2月17日に、その活動の一環で資料やデータを提供した広島県の尾道市立原田小学校において、海運に関する授業が行われた。当日は、県内の小学校の先生を中心に約15名が参観した。

授業は「我が国の貿易～海族と呼ばれる人たち～」と題し、担当の村上忠君教諭から、衣食住・エネルギーの海外依存度や海運が止まった場合の食事例の写真など、海運により我々の生活が支えられていることが説明された。また、東日本大震災・福島第一原発事故の影響による風評から、貿易国が日本への寄港を拒否するなど、実際に海上輸送が停止しかけたことが説明され、生徒はなぜ海上輸送が止まらなかったかなどの意見を活発に出し合い、今回の例では正確な情報が国や国連から発信されることの重要性を学んだ。

授業の最後には生徒から、「(海運会社や関係者に対して) 暮らしを守ってくれてありがとう」などの感想が寄せられるとともに、タンカーの速度などの質問を受け、田中常務理事が丁寧に説明した。

当協会では、今後も我が国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知って頂くための活動を展開していく。



授業の様子



教室には海運に関する資料が掲示